



頑張れ、小さな科学者たち

園長 足立 祐子

いよいよ夏がやってきます。浅草の町では植木市、ほおずき市の開催をはじめ、楽しい夏のイベントがたくさん企画されています。子供たちにとってもワクワクする季節なのではないでしょうか。

私たちが子供の頃の夏といえば、蚊取り線香の匂いや風鈴の音、すだれやよしずから入るやわらかな光、スイカやアイスキャンディーの冷たさ、扇風機の羽根の魅力的な動きなどが思い出されます。匂いや音、感触や心地よさは、体の中に染み入るように潜在意識の中にとどめられているようです。私は、その中でも特に、暑くて暑くてたくさん汗をかいた思い出が鮮明に残っています。まとわりつくような蝉の声とぎらぎらとした日差し、その中で走り回り、神社の木陰で涼んだ心地よさが今でも忘れられません。富士幼稚園の子供たちの輝く夏が、もうすぐやってきます！

水遊び大盛況

幼稚園でもプール開きを行い、各学年共、園庭でプール遊びや水遊びを楽しんでいる様子が見られます。節水の意識を大事にしながらも、子供たちにとって今しかできない豊かな体験を保障するために、水量を減らしたり散水に再利用したりと、職員はいろいろと工夫をしています。子供たちにとって、水は気持ちよく楽しく特別な存在ですが、この水遊びでたくさんの学びがあります。

○体で感じる感触・温度・匂い・・・「冷たいね」「気持ちいいね」「日に当たっているところは温かいんだ」など、その心地よさを感じたり温度の違いを感じたりしています。水の特性を感じることや、感じた感覚を表現する経験を通して、感性や表現力も育てます。

○水の特性を感じる・試す・確かめる・・・「手ですくうとこぼれる」「高いところから低いところへ流れる」「流れる水を手で切ってみても切れない」「たくさん入るとあふれる」などの特性を、繰り返し水の移し替えをする中で感じています。3歳児は、その動きを繰り返し楽しみ、出来たことそのものを喜んでいきます。しかし4歳児になると、「なんで切れないの？」「手で止めてみよう！」「こぼさないで移し替えられるよ！」などと疑問をもったことを考えたり、聞いたりしていきます。面白い、不思議！知りたい、と思って繰り返し取り組むことで、試したり工夫したりする力が芽生えていきます。5歳児になると、今までの経験を踏まえ、「こんなことをしたら、楽しいんじゃないか」「この実験(子供たちは自分が実験をしているつもりになっています)の結果は、こうなるだろう」と小さな科学者のように、予測を立てて試したり確かめたりをする姿が見られます。これは、泳ぎの練習をすることとは全く違う経験です。幼稚園の水遊びでは、このような経験を積み重ねて科学の芽も育んでいきます。

○挑戦する・・・水の特性とも兼ねますが、「ものが浮く」という現象を、自分の体で実感していくのが幼稚園でのプール遊びです。泳法を学ぶというよりは、水の中で、どれだけ自由自在に自分の体を動かせるか、安全な動きを身に付けるか、ということが大事になります。最大の恐怖「顔を水につけること」は、繰り返し楽しく遊ぶ中で自ら挑戦し、克服していくこととなります。全員ができるようになることをねらってはいませんが、5歳児は、動機付けや励ましをもとに、友達の刺激を受けながら頑張る姿が毎年見られます。何より、挑戦しようという意欲を育てることが重要ですね。

この季節ならではの水遊び、「暑いからしている」というばかりではなく、様々な要素があるのだとしみじみと感じます。どうぞ夏休みも引き続き、お子様の研究活動を応援して下さい。小さな科学者たちのために！

